

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

3月1日(No.41・春の便りちらほら号)

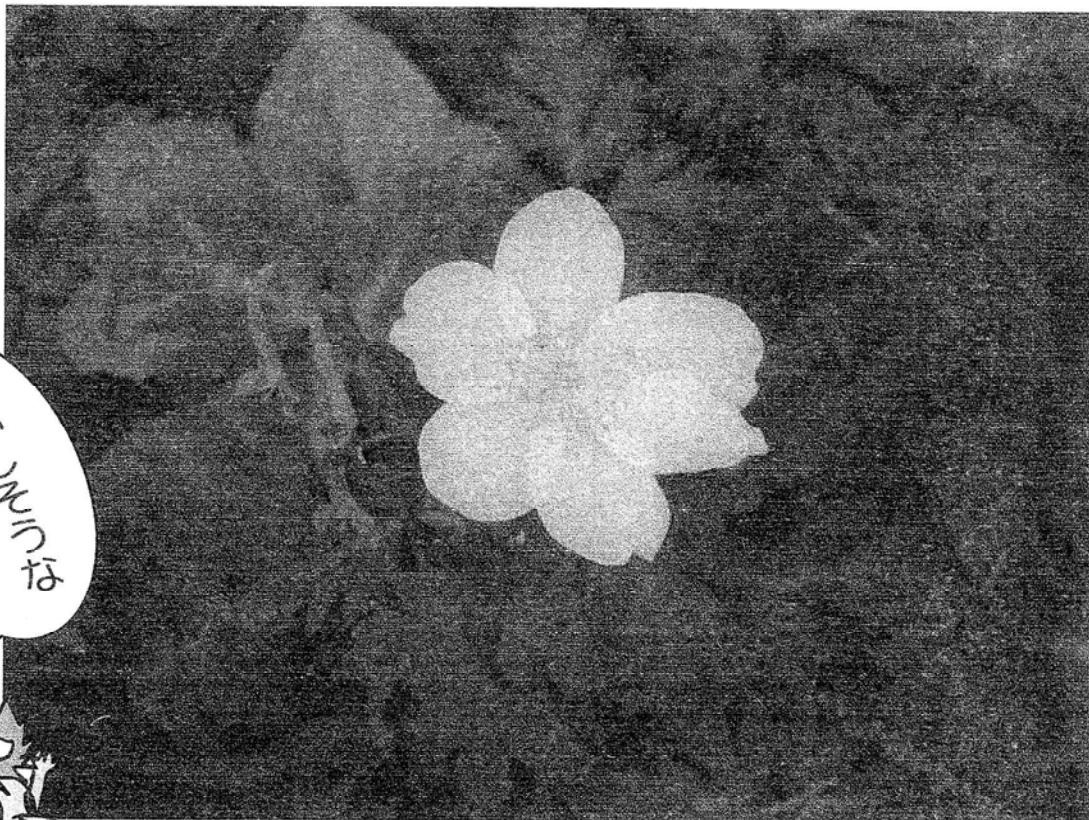
2006
*
3月

NPO法人工エコシティ志木

代表理事 天田 真

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>



写真：天田 真

勝手にレッドデータ of 志木 (27)

樹林の野草

近年、志木の樹林が急速に減っています。しかし、もっと減ってしまったのが、樹林の林床や周辺を彩っていた野草たち。豊かな自然に見える樹林も中をのぞいてみると、適切な管理がなかつたため光が届かず下草が消えてしまったり、過剰な管理で草がみんな刈られてしまったり。そんな中でイチリンソウ等の希少な野草がわずかに生き残っているところもありますが、残念ながら、それさえも盗掘にあっているので、場所は明かせません。(天田 真)

1/8
(日)

埼玉県下 197 地点

県下一斉ガン・カモ調査が行われる

去る1月8日(日) 9時から埼玉県の197地点において「ガン・カモ科鳥類生息調査」が行われました。

担当区域である、柳瀬川の志木大橋～新河岸川合流点まで、NPO法人エコシティ志木が(財)埼玉県生態系保護協会志木支部・富士見支部に協力するかたちで、今年も実施いたしました。幸い天候に恵まれ、参加者17名で班を作りそ

れぞれの班毎に調査対象の野鳥を決めて生息数をカウントして歩きました。

今年のカモは7種で275羽と昨年の438羽から激減しており、みな愕然としました。10年前には1,200羽以上が観察され、2001年以来はほぼ400羽前後の数ですが、埼玉県全体では10年来約35,000羽で変わりませんので、彩湖が完成した影響かもしれないという説もあります。

(山崎光久)



種名	数	昨年比
1. ヒドリガモ	106羽	-77
2. オナガガモ	25羽	-31
3. コガモ	89羽	-51
4. カルガモ	46羽	-10
5. マガモ	7羽	+7
6. ハシビロガモ	1羽	0
7. アメリカヒドリ	1羽	+1
8. ホシハジロ	0羽	-2
合計	275羽	-163

2/4
(土)

こどもとおとの自然塾 (05年度第5回)

冬の渡り鳥を見てみよう

2月4日(土) こどもとおとの自然塾「冬の渡り鳥を見てみよう」を実施しました。朝の9時に東武東上線柳瀬川駅のサミット前広場に集まったのは、総勢17名でした。当日は今冬一番の冷え込みで、外気温0度ということもあって、残念ながらこども達の参加はありませんでした。

早速柳瀬川に沿って観察を始めました。

カモ類では、ヒドリガモ、コガモ、カルガモ、セキレイ類ではキセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ等合計22種類の野鳥が観察されました。アメリカヒドリ、タシギは見られませんでしたが、タゲリが上空を飛んでいくのを見る事が出来ました。(山崎光久)



タシギはいるかな…

2005年は10回の調査で43種類の野鳥を確認しました。柳瀬川の特徴は冬鳥が多く、夏鳥（つまり柳瀬川付近で繁殖する鳥）が少ないという傾向にあります。（毛利）

2005年 柳瀬川ウォッチング(野鳥調査)の記録

●調査方法

- A) 毎月第3日曜日、午前9時～12時に実施（悪天候の場合は中止）
- B) 一定の速度で歩きながら半径50mの範囲を目安に出現した野鳥の名前と数を記録。
- C) コース
 - (1) 柳瀬川右岸 志木中学校前～高橋
 - (2) 柳瀬川右岸 高橋～栄橋
 - (3) 栄橋～旧柳瀬川～高橋
 - (4) 柳瀬川左岸 高橋～水谷田んぼ～富士見橋
 - (5) 柳瀬川右岸 富士見橋～志木中学校前
- D) 本調査は「柳瀬川ウォッチング」として1997年6月より行っています。

鳥 名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1 カイツブリ			0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
2 カワウ			0	0	1	3	1	5	2	4	1	4
3 アオサギ			0	0	0	1	0	1	0	0	1	0
4 ダイサギ			0	0	0	0	0	1	0	2	2	3
5 チュウサギ			0	0	0	0	5	0	0	0	0	0
6 コサギ			2	4	1	10	8	5	6	4	2	2
7 カルガモ			12	5	7	21	13	16	32	45	11	15
8 コガモ			116	43	4	0	0	0	0	64	33	48
9 ヒドリガモ			61	0	0	0	0	0	0	0	8	36
10 オナガガモ			0	8	0	0	0	0	0	0	0	7
11 タシギ			3	0	0	0	0	0	0	7	0	0
12 セグロカモメ			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13 オオタカ			0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
14 チョウゲンボウ			0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
15 キジ			0	0	0	1	1	3	0	0	3	0
16 コチドリ			1	0	3	1	2	0	0	0	0	0
17 イカルチドリ			2	2	0	0	9	15	28	21	29	25
18 タゲリ			0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
19 インシギ			2	3	6	0	0	3	1	8	7	4
20 ユリカモメ			0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
21 キジバト			11	7	9	9	7	1	2	13	0	3
22 カワセミ			0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
23 コゲラ			0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
24 ヒバリ			0	0	2	0	0	1	0	2	14	19
25 ツバメ			0	18	13	19	24	18	3	0	0	0
26 キセキレイ			1	0	0	0	0	0	0	3	1	3
27 ハクセキレイ			11	7	6	0	3	2	5	21	25	12
28 セグロセキレイ			2	0	2	0	0	0	0	4	7	7
29 タヒバリ			14	0	0	0	0	0	0	0	11	1
30 ヒヨドリ			6	56	8	8	1	2	3	21	16	19
31 モズ			0	0	0	0	0	0	0	2	0	1
32 ジョウビタキ			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
33 ツグミ			18	8	0	0	0	0	0	0	0	0
34 オオヨシキリ			0	0	17	12	5	0	0	0	0	0
35 セッカ			0	0	1	1	2	3	0	0	0	0
36 シジュウカラ			2	4	2	0	5	3	1	0	0	0
37 オオジュリン			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
38 カワラヒワ			0	2	2	4	11	0	0	0	0	0
39 スズメ			72	44	30	75	139	53	72	174	81	62
40 ムクドリ			48	45	35	51	42	43	8	58	4	9
41 オナガ			0	0	2	0	0	0	3	1	0	0
42 ハシボソガラス			2	2	2	5	1	4	2	1	2	6
43 ハシブトガラス			9	47	41	6	9	6	8	11	59	12
ドバト			36	17	25	10	26	4	0	87	0	40
アイガモ			0	0	2	2	0	0	0	0	0	0
ワカケホンインコ			0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

※1・2月は雨天等のため中止しました。

※集計=山崎光久

*主催=NPO法人エコシティ志木／(財)埼玉県生態系保護協会志木支部

冬鳥

2/11
(土)

西原斜面林の手入れ&自然観察

日当たりをよくする作業を行いました

西原斜面林は、志木の崖線に残る雑木林で、市内でもこれだけの面積が残っている所は少ない



く、志木の緑地ネットワークを確保する上で非常に貴重な空間です。

当会では、毎月1回、この西原斜面林で保全活動と自然観察を実施しています。2月は、林床への日差しを遮ってしまう常緑の低木や落ち葉、ゴミなどを取除き、日当たりをよくする作業を行いました。こうする事により、衰退してしまった野草がよみがえり、いろいろな生物が生息出来る環境になります。

集めた草木や落ち葉など自然にかえるモノは、遊歩道の土砂止めに使ったり堆肥場に集めたりしながら、徐々に自然に戻していきます。また、プラスチックのゴミなど自然にかえらないモノは、市役所に引き取ってもらうため特定の場所に集めています。

作業をしながらも、雑木林の四季を感じられ、とても楽しい活動です。今年5月からは活動日を第四日曜日に変更しますので、今まで都合が合わず参加出来なかつた方もぜひご参加ください。

(伊藤智明)

←雑木林の四季を感じながらの作業（写真：伊藤）

部会

ごみとエネルギー部会2005年度総括

昨年の2月初頭に、部会長にと言われ、5月に就任して、はや一年が経とうとしています。年度初めに立てた活動計画も、手付かずのままのものがあるかと思えば、アンケート調査等試行錯誤しつつも手応えを感じたものもあり、この一年で学んだことをどのように今後に活かすかが課題と言えると思います。

また、9月から12月にかけては、いち市民として、市が毎年発行しているごみ白書（年次報告書）の編集をお手伝いさせていただきました。それぞれの思いと環境推進課の方と

の良きコミュニケーションが今後につながることを期待しています。

来年度の計画に関しては、まだ検討中ですので、幅広いご意見を持つ方々にお知恵を拝借できたらと考えているところです。

身近な生活の、ほんの細部について考えること、実践することがエコライフ=地球環境に優しい生活につながることの面白さ、魅力を伝える何かができればと思います。

(部会長：三浦真奈子)

11/27
(日)

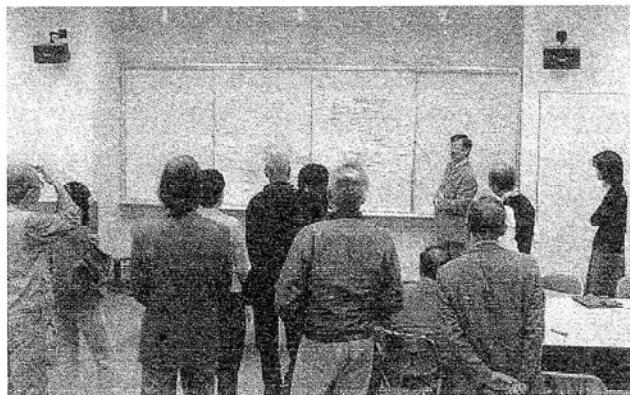
志木まるごと博物館 お宝交流シンポジウム(第3回)



今に残る志木の歴史と自然「みんなでつくろう!! 志木のお宝マップ」

第3回目となる今回のシンポジウムでは、志木市周辺の貴重な自然や文化遺産を市民の視点でピックアップし、お宝マップづくりを楽しみました。

第一部「事例紹介」では、館長天田眞さん、いろは商店会の谷合茂樹さん<谷合写真館>と岩下隆さん<「ニュータイムス」編集長>、荒川の横堤について安斎達雄さん<志木市郷土史



研究家>と、それぞれ違った視点で地域に根ざしたお宝(地域資源)をご紹介いただきました。

第二部の「志木のお宝マップづくり」(指導=若尾明子さん<NPO法人市民情報活動センター・ハンズオン!埼玉事務局長>)では、事例報告をもとに「商店街」「川」「その他なんでも」の三つのテーマに分かれマップづくりのアイデアを出し合いました。

三つのグループとも、2007年問題の「団塊の世代」をマップを見せる対象にし、地域に無関心な人々をどうすれば関心を持たせる事が出来るかに知恵を出しあいました。各グループの発表時には、「居心地の良い所や長居できる所のマップ」や「自分で地域のオリジナルマップを作れるマップ」などいろいろなアイデアがありましたので、今後はそれらのアイデアが具現化出来るようにしていきたいです。(伊藤智明)

←第2部の発表風景 (写真:伊藤)

12/25
(日)

お宝発見ツアー

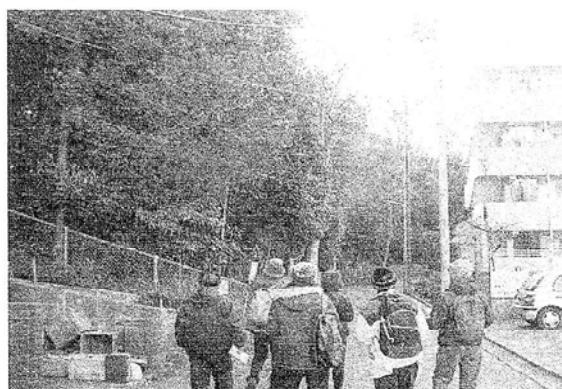
志木の崖線を歩く

志木型エコミュージアムを模索する活動「志木まるごと博物館 河童のつづら」では、地域の面白さを見つけるために、お宝発見ツアーを実施しています。今回は、武藏野台地と荒川低地の境界である「志木の崖線を歩く」がテーマで、台地の縁に連なる崖線のうち柳瀬川により形成された部分に沿って歩きました。

普段は何気ない風景が、視点を変えて説明を受けながら歩くと今までとは全く違った風景に観えてくるのには大変驚きました。ちなみに、かしわ公園には河童様の乗り物もありました(笑)。(伊藤智明)

【主なコース】こもれびのこみち斜面林→市場ふれあいの森(河岸場の名残)→かしわ公園(湧水と滝があった)→中野ふれあいの森→城山貝塚→行屋稻荷(正保5(1648)年の庚申塔あり)→館の氷川神社(裏手に野火止用水分水路の跡)

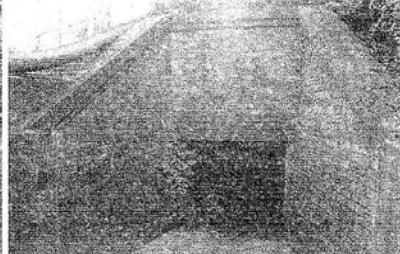
→柏の城跡→長勝院跡→柏町ふれあいの森→神明神社→千手堂(鎌倉末期から室町中期の創建と推定)→西原区画整理地区斜面林(せど湧水・鎌倉街道の跡・野火止用水分水路の跡・塚の山古墳?)→大六天社→福住・城が丘住宅地と崖線の間→志木・新座境界の谷津→新座市北野(野火止用水分水路の跡)



柏町ふれあいの森 (写真:伊藤)

特集

水にかかる自然と文化（4）



←北美堤樋：煉瓦造、明治32年、宗岡四小口の下ノ谷堤下（左写真の左側は後に付け加えられたもの）

宗岡に残る明治期の樋門群

柳瀬川でも新河岸川でも、堤防のところどころに、内水を流した水路が貫通しています。樋門又は樋管と呼ばれます。普段は内水を川に流し、川が増水したときは扉を閉め逆流を防ぎます。低地が多い志木では大切な防災施設です。

● 宗岡の旧堤防

宗岡地区では江戸時代から荒川の堤防（荒川大圍堤）と新河岸川の堤防（新河岸川除堤・下ノ谷堤）の他に、上流側の南畠村との境（佃堤）と下流側の内間木村との境（新田場堤）に堤防を築き、集落と耕地を堤防で囲み（惣囲堤）、洪水から村を守ってきました。こうした堤防は大正10年から昭和5年までの改修工事で新河岸川が現在のような真っ直ぐな河道になり、新しい堤防が築かれたことにより、その使命を終えましたが、その跡は道路に変化したりしながらも今でもかなり残っています。

● 惣囲堤の樋門群

惣囲堤には現代と同じように、排水を管理するための樋門が設けられていました。江戸時代には木製で、宗岡村に12ヶ所設けられていた

ようですが、明治後期に石造や煉瓦造に改築されたものの内4ヶ所が現在も残っています。内2ヶ所は逆流を防ぐ扉が古い形式を伝え、水圧で自動的に開閉する観音開きになっていましたが、残念ながらこの点も含め、多くに原型を損ねる改造がなされています。

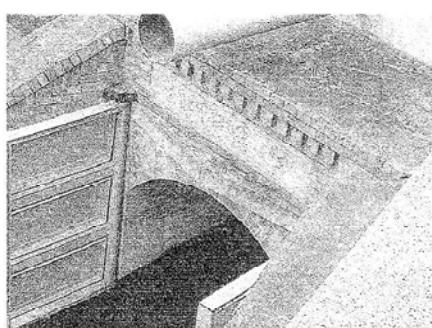
埼玉県にはこの時期の煉瓦造による樋門等の土木構造物が多く、近隣でも富士見市、川越市、羽根倉橋近くのさいたま市に現存しており、使用された煉瓦は深谷にあった日本煉瓦製造会社の製品です。

こうした構造物は江戸時代には堀（いり）又は堀樋と呼ばれ、明治・大正期には門樋の呼称も使われました。現在は樋門・樋管が一般的ですが厳密な定義は無く、通常は通水断面の大きいものが樋門、小さいものが樋管と呼ばれ、より大規模で堤防を切り上部が開放されているものは水門と呼ばれます。

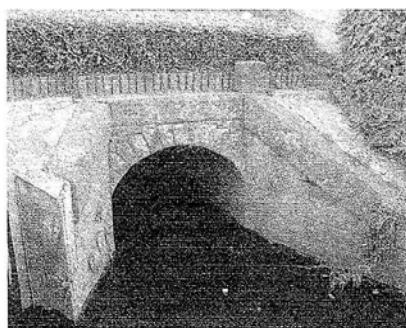
（天田 真）

参考文献：

「埼玉県の近代化遺産」1996 埼玉県教育委員会
「郷土の地名」1988 志木市



←大小合併門樋：煉瓦造、明治31年
総合センター裏手の下ノ谷堤下、むじな橋の隣



←籠島門樋：石造、明治28年
宗岡二中付近の新田場堤下

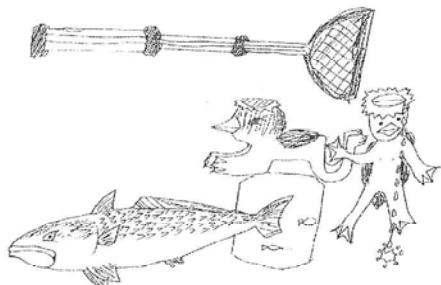


新田堀樋：煉瓦造、明治33年→
籠島門樋の東方の新田場堤下

●会員紹介

さかもと しげり
坂本 滋くん

(東京都板橋区在住)



自分でとれるのがいい!! 初心者向きだよ。クララ、かわいかった!

毎月の魚調査をとっても楽しみにしています。板橋区から参加の坂本滋です。早生まれの戌年で春から中学生(!)とは、母の私もびっくり。

「魚歴」ですが、低学年の頃から荒川クリーンエイドのみなさんにお世話になり、平井周辺で泳ぎ、ハゼ、テナガエビの天ぷらの味を覚え、投網にかかったコイをさばいたり（血だらけ…）していました。縁あって流れを遡り、柳瀬川へ。今ではカッパさんと大の仲良し。学校では、魚調査のことを絵日記にして魚好きの担任の先生に報告したり、学校の水槽（ナマズ、ウキゴリ、

「好きな魚はヌマチチブ。柳瀬川はいろんな魚がいるところ。自分

ウナギetc.）のそばに「お魚何でも質問箱」を設け、質問者にはお礼に折り紙を折ってあげるなどしています。

家では、包丁研ぎ係。イワシ、イカを手びらきするのが好き。食卓にサンマがあれば大満足（アユなら踊り出す？）で、将来は家の裏の川で釣った魚と自家製漬け物にごはん、みそ汁（みそも手作り）、——という生活をするのが夢、とか。でもその前に「カツオの一本釣り」がしてみたい!!（やれやれ）。

柳瀬川が楽しみなのは、魚だけではなく、いっしょに活動してくれる人達がいて賑やかなためです。みんなにはいつもお世話になりっぱなしで、この場をかりてお礼申しあげたいです。

【紹介者：小野恭子】



「志木市の環境」—平成16年度版—
 市環境推進課から発行

当会が編集を請け負って今年で2回目の「志木市の環境」が発行されます。市民に親しみやすい紙面を目指して、今回は特に「志木市の自然環境」と「市民活動」にスポットを当て、詳しく解説しています。

また、資料編として志木市の環境に関する取り組みの歴史や用語集も充実しています。志木市の環境を知るガイドブックとして、是非一読をお薦めいたします。

問合せ=048-473-1111（市環境推進課）

新河岸川流域川づくり連絡会

皆さんには新河岸川をご存じでしょうか？エコシティ志木の活動エリアを流れるお馴染みの柳瀬川が、ちょうど志木市役所辺りで合流しているのが新河岸川です。新河岸川は柳瀬川以外にも上流の不老川から下流の白子川まで、多くの支川を合わせて流れる流路延長約25km、流域面積約410km²の一級河川で、江戸時代には川越と江戸を結ぶ舟運が盛んに行われており、川沿いには幾つもの河岸場があったことが名前の由来になったとも言われています。今回は、そんな新河岸川の流域全体で活動している「新河岸川流域川づくり連絡会」の活動を報告します。

新河岸川には大きく2つの活動団体があります。ひとつは、市民を中心となり、川や河川周辺の環境を中心に活動する「新河岸川流域水環境連絡会」で、もうひとつが、環境のみならず治水や利水の取り組みを加えた活動を行っている「新河岸川流域川づくり連絡会」です。治水・利水に絡むこともあるって、事務局を国土交通省荒川下流河川事務所調査課内に置く、市民と行政間の情報交換を中心に行う、普通の市民団体とは一風変わった団体となっています。

でも、変わっていることには利点もあります。「河川見学会・交流会」などがその一例です。見学会では、普段はなかなか見ることのできない河川管理施設を見ることができたり、その後の交流会では、埼玉県や東京都の河川管理者の方々とざっくばらんに意見交換をしたりできるからです。その他にも多くの活動を行っており、年に一回の「新河岸川流域フォーラム」や、昨年度から実施している継続的川づくり活動の一環としてスタートした「川でつながる発表会」は、今年はつい先日第2回目を実施し、100人を越す多くの方が参加され、皆さんの好評を得ました。

そんな様々な活動を写真とともにご紹介しますので、興味をもたれた方がいらっしゃいましたら、是非是非、当会の次年度の活動に参加していただきますようお願い申し上げます。



新河岸川流域フォーラム（*）：
新河岸川流域の各河川や流域のことを広く市民に知つていただきため毎年実施しています。今年は10月頃の開催を予定しています。写真は早稲田大学B地区湿地のウォーキング（昨年）の様子です。



川でつながる発表会（*）：
先日2月25日に第2回目を終えました。流域の小・中・高校生、大学生が、川や水、環境に絡んだ学習の成果を発表し、生徒間及び市民と交流する会です。写真は第1回の発表の様子です。



河川見学会・交流会：
継続的川づくり活動の一環として昨年度よりスタートしました。これまでに9回の見学会と6回の交流会を実施、参加者からは各回とも好評を得ています。写真是柳瀬川見学会で水谷田んぼを見学している様子です。



川づくり連絡会：
文字通り行政と市民の連絡の場になります。フォーラムの企画立案や川づくりに資する議題などについて皆で話し合っています。写真は議論の途中で図面に見入るメンバーです。

（*）印の活動にはメンバー以外の方も参加できます

●志木自然イノフォメーション●

生き物情報は Tel/Fax 048-471-4275 Email : qwj11624@nifty.com(毛利)へ
ホームページ⇒http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/sizen_info_2.html

《鳥類》

◆アメリカヒドリ (1) →1/8 (月) 柳瀬川、ガンカモ一斉調査で

【山崎光久ほか】

◆カイツブリ (1) →1/8 (日) 柳瀬川、ガンカモ一斉調査で

【毛利将範ほか】

◆タシギ (1) →1/8 (日) 柳瀬川、ガンカモ一斉調査で【下田ほか】

◆カワウ (326) →1/15 (日) 水谷田んぼ上空、柳瀬川ウォッチング
で【吉田ほか】

◆カワウ (300以上) →1/22 (日) 柳瀬川：志木ニュータウン前、突如
上流から鳥の大群が。あわてて写真をとりました。300羽以上いた
ように思われます。【飯塚伸夫】

◆ツバメ (1) →2/4 (土) 柳瀬川：東武東上線鉄橋の上流、内陸部で
の越冬ツバメは珍しい記録だと思います【須藤敦夫】

◆シジュウカラ→2/6 (月) 朝霞市宮戸3丁目、今年初のシジュウカラ
のSongを聞きました【毛利】

◆アカハラ (♂1) →2/19 (日) ワイス敷地内、柳瀬川野鳥ウォッチン
グで、枯葉を除きながら 餌を探っていました【山崎光久】



←越冬ツバメ(2・4須藤)

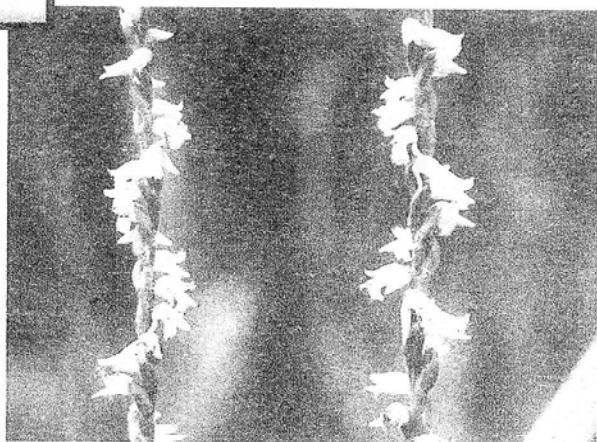


↑アカハラ♂2/19(山崎)

野草あれこれ 名前の由来 23

ネジバナ(ラン科)

小さな花が花茎に多数らせん状に付きます
が、その花穂がねじれている様子からネジバナ
の名があります。別名モジズリ(捩摺)の名も
ありますが、シノブの葉や茎の色素を布に摺つ
たものが忍捩摺(捩摺)で、そのねじれたよう
な模様がネジバナの花穂に似ているのでこの
名があります。日当たりのよい場所や芝生の
中に多く見られます。花は淡紅色ですがまれに
白色のものもあり 20~30cm の花茎に下から上
へと咲き上がっています。

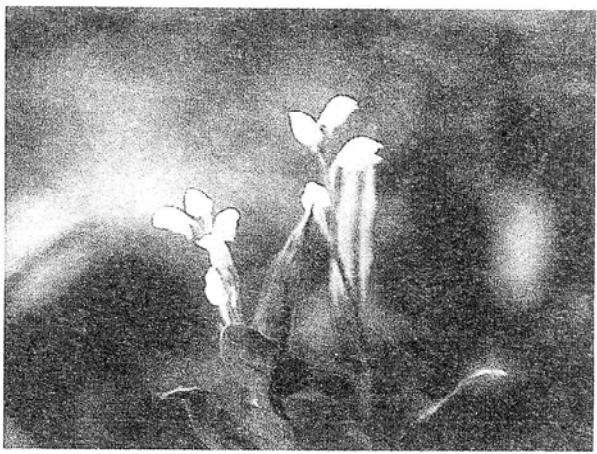


↑名のとおりねじれて咲くネジバナ

キンラン(ラン科)

花色が黄色いランなのでこの名があります。
うす暗い雑木林の中でも濃い黄色なので目立
ちます。また花の色が白い種類がギンランで、
キンランに比べやや小さく花も小ぶりです。
雑木林で両種が咲き競っているのを見ました
が、花はどちらも春から初夏にかけ同じ時期に
咲きます。

(高橋和夫)



↑雑木林の中に咲くキンラン。

☆会員状況

2月20日現在の更新済みの会員

個人正会員 76名

団体正会員 2団体

賛助会員 2名。

■カンパありがとうございました

岩上弘さん、金子秀樹さん、

榎田宏子さん

★本会の財政基盤は、

会員の方の年会費が

頼りです。

★2006年度も引き続

きよろしくお願ひ致
します。

★宛名シールに会費の有効期間が

書いてあります。チェックしてく
ださいね。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会が参加している、または主な 協力団体

いろは遊学館利用者の会

黒目川に親しむ会

グループぽんぽこ

(財)埼玉県生態系保護協会志木支部

志木NPOネットワーク会議

志木おやこ劇場

志木市コミュニティ協議会

市内小中学校

新河岸川水系水環境連絡会

柳瀬川流域ネットワーク

情報満載！
当会のホームページ

公式ホームページ

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

志木まるごと博物館「河童のつづら」

<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/>

●報告

志木産うどん作り

平成17年12月18日(日) 臨時総会の後、志木産うどんづくりを体験しました。

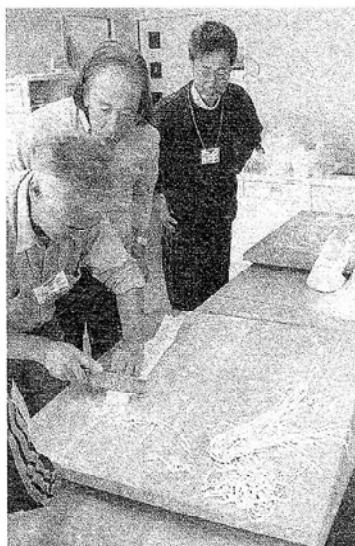
志木市宗岡地区で実家が農家をされている金子秀樹さんが、自分の畑で作った小麦を使ったうどん作りが得意という事を聞きつけ、「うどん作り」の講師と食材(うどん粉)提供をお願いして今回の「志木産うどん作り」が実現しました。

うどんは、もともと武藏野台地では一般的な郷土料理とのこと。参加者の中には昔の事を思い出しながら作られている方もいらっしゃいました。

出来あがったうどんは、太さがまちまちのモノもありましたが、地場産のうどん粉という事もあって、とても美味しい味に仕上がり、みんなお腹がいっぱいになるまで食べ続けました。

こうした活動は、志木市の食農の学習や文化伝承、また地産地消等を進める上で、ただ受身で学ぶだけではなく、参加体験型であり、具体的でわかりやすくよかったです。将来的には、こうした活動を柳瀬川流域水循環マスターplanの市民プロジェクト等でも行えたらと思います。

(伊藤智明)



写真：伊藤智明

清ちゃんヨ、去年(昭和27年)、長勝院の豆まき見に行つたんべ…、
あん時の相撲取りがデッカイのでビックリしたヨな。

あんなデッカイ手じや一度にどんなに豆を摑むだんべナ…、足もデツ
力カツタしナ…。

清ちゃんが、ウーン そう言えば、今、一番強い相撲取りでヨ。連
勝中の横綱羽黒山だと言うぞ…。後で聞いた話なんだけど、横綱が便
所にヤットはいつたんだつてヨ。ソンデナ、重たくて便所の床が抜け
ちゃつたと言ふ話だど…。

●くらしと言葉

37

尾崎 征男



「俺んちの節分」

そう言えば、長勝院は古
くてボロだから歩く度に床
がミシミシ言つていたもの
ナ…と、相づちを打つた。

早いなうあれからもう一

年経つちやつたんだ。

さて、うちに帰つて豆まきすんだから、ジャム明日ナ…。

征男、おもて(屋号)に行つて、男ヒイラギ貰つて來い。
家はヒイラギの垣根だが、女ヒイラギで役立たないからだ。

男ヒイラギは葉の切り込みが鋭く鬼の目を射抜き、また、
目刺(鯛)の頭を焼くと物凄い臭いがするので、鬼が嫌うと
信じられ「節分」にするお呪いであった。

開み、妹と弟は周りをウロチヨロしていた。天井から下がる
自在鉤に引っ掛けたホウロクに、大豆を五合ほど入れ、下から、
大豆の枯枝(決まり事)を燃料にして、呪文を唱えながら豆を炒つた。

俺は、豆を炒る役目で、木のシャモジでコロコロと焦げないようにな
かき回し。ネエちゃんは火を強からず弱からず保つ役。アンちゃん
は、金時豆の枝(決まり事)に目刺の頭を刺したものを作り、藁で束ねて手に持ち火に炙りながら、目刺の頭に唾をかけ、こんな事を唱えた。

「桶の虫の口焼きブツブ(ブツブとは唾を吐く動作)、タノクロ豆の虫の口焼きブツブ」
ネエちゃんヨ、チャンと燃せヨ、煙いだんべな。

しようがねえヨ、少し濡れているんだから我慢しナ、と言われたので
俺、棒で灰をかき回した。

サア大変、灰が舞い上がり怒られた。少し待つて、アンちゃんは続けた。

「陸稻の虫の口焼きブツブ、人参の虫の口焼きブツブ、牛蒡の…、ほうれん草の…」

思いつく作物の名前を挙げて…、ネエちゃんと俺も加わり合唱になつた。暫くすると、大豆の焦げたい匂いがしてきた。それより目刺の頭の焦げた凄い臭いが辺りに充満した。

モいいかと言つたら、最後に、「万の虫の口焼きブツブ」と唱えて終つた。

お婆ちゃんがホウロクを逆さまにして炒り豆を一升枡に移した。
ジャード豆まきするベ…と立ち上がる、

チヨツと待て。まず、ダイジゴ(大神宮)様に上げてからだ。

俺、枡を供え手を合わせお辞儀したら、いつの間にか妹と弟も真似してサラーするべ。まず、大神宮様、大黒様、恵比寿様、荒神様、の順に

「福は内…福は内…鬼は外…」福は内…福は内…鬼は外…」と、アリツタケの声を張り上げ、妹も弟も真似して3回繰り返すと同時に

雨戸をガラガラピシャンと締めた。

次は、外に祭られる稻荷様、井戸神様へと回り、物置、蔵にも、同じように唱えた。

井戸神様のときだ。釣瓶井戸だから、井戸の中に向かつて、「福は内…福は内…」と、豆を投げ込んだ。

それを、親父に見つかり、井戸水がようござれるだんべ…。

そんなことネエヨ。井戸の中に鬼がいてショーンベンしたらどうする

んだ…。また、豆は水に浮くから大丈夫だんべ…と、口ごたえをしたら、

全くしようがねナ…と言ひながら許してくれたようだつた。

外回りが終わると、玄関、裏口、それぞれ大声で「福は内…福は内…鬼は外…」と、3回唱え戸をガラガラピシャンと閉めて終つた。

アンちゃんは黒く焼けた目刺の頭と男ヒイラギとを藁で縛り(ハツカガシと言う)戸口に括り付けた。なんでも、戸口から来る鬼(惡靈)を家に入れないようにする魔除けで、一年間そのままにして置く物であつた。家の中ではお婆ちゃんとネエちゃんが仕度した夕餉の美味しい匂いが漂い、妹と弟がもうチヨコンと座つていた。

2006年度役員候補者を公募します

会の運営にかかわりませんか？

当会には「理事」と「監事」の役員がいて、理事会や運営委員会などで会の運営にかかわる事項を協議・執行しています。5月に開かれる定期総会での役員改選に伴い、役員候補者の公募を行います。

定期的に開かれる理事会や運営委員会に出席でき、会の運営に参加してみたい方、是非立候補して下さい。

公募する役員候補者と定数

●**理事** 10名～15名。当会の業務を執行します

●**監事** 1～2名。理事の業務執行や会の財産の状況を監査します

◇無報酬 ◇任期 1年

◇応募締切 3月13日（月）

NPO法人工シティ志木定款（抜粋）

第12条 本会に次の役員を置きます。

(1) 理事 10名以上15名以内

(2) 監事 1名または2名

2 理事の中に次の役職者を置きます。

(1) 代表理事 1名

(2) 副代表理事 1名または2名

(3) 部会長 各部会に1名

(4) 事務局長 1名

3 代表理事とその他の理事および監事は、総会において選任します。

4 副代表理事、部会長および事務局長は、理事の互選とします。

5 監事は、理事または本会の職員を兼ねることはできません。

（以下略）

役員選出の今後のスケジュール

①応募が定数を超えた場合→全応募者で協議して定数以内に絞ります。

②応募が定数に足りない場合→応募者が推薦する人を加えて定数を満たします。

③4月の理事会で応募者を「2006年度役員候補者」として総会議案書に掲載します。

④5月21日（日）の定期総会で選出します。

◇応募・問合せ

電話、FAX、メール等で天田眞まで
(現役員の方も改めて意思表示をお願いします)

電話・FAX=048-471-1338
Eメール=eco-shiki@ff.e-mansion.com

◇厳しかった寒さもさすがにこのころ緩んできました。しかし、私のまわりでは風邪をひいた人が多いです。気をつけましょう。
◇「ウナギふるさとはグアム沖」というニュースが2月23日の新聞に掲載されました。柳瀬川で見つかるウナギもそんな遠くから来ていたのですね。日本産のウナギは数千キロの大回遊をすると言われていましたが、場所が判明して、改めて驚かされました。（ふくろう）

工シティ志木通信
第41号・2006年3月1日
発行

NPO法人工シティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

URL <http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com

